

愛媛大学地域創成研究センター

登録研究会・地域貢献組織活動報告 — 平成17年度 —

研究会名	愛媛大学国際理解教育研究会
代表者名	小林 資忠 (教育学部教授)
本年度の 内部活動	<p>宿泊研修 2005年6月18, 19日 望湖荘(旧肱川町, 現大洲市)。</p> <p>第一日, ①浮世絵館見学, ②報告とディスカッション, 「大連での留学体験記」(教育学部4回生矢野紘子, 仲渡美月), 「中国人留学生が見た日本」(交換留学生・遼寧師範大学大学院生瀋陽)</p> <p>第二日, 瀋陽さんの指導による水餃子作り体験。参加者は教育学部学生14名および教員</p>
本年度の 対外的な 活動内容	<p>韓国釜山研修 2005年6月23~27日, 東西大学校日本センター(釜山)。 東西大学校日本センター主催の「日韓学術フォーラム」への参加。 テーマ「東アジアにおける人文社会研究の新動向」。</p> <p>第9回国際理解教育研究会 2005年7月16日, 教育学部403教室。 ①研修報告, 「オーストラリア留学報告」(教育学部3回生近藤千絵), 「韓国釜山研修報告」(教育学部3回生砂川奈美, 山内のどか, 2回生寺川徹), 「大連遼寧師範留学報告」(教育学部4回生矢野紘子), ②研究発表, 「『伊豆の踊り子』の授受表現から見た川端康成の内的世界」(交換留学生・遼寧師範大学大学院生瀋陽)。③講演, 菅野真紀子先生(本学非常勤講師)「トルコへのいざない」。出席者は約40名。</p> <p>第10回国際理解教育研究会 2006年2月11日, メディアホール。 ①卒業研究発表, 卒業生11名による卒業研究発表。</p> <p>国際理解教育研究会公開シンポジウム 「大学における外国文学」。 ①基調講演「大学における外国文学教育の意義—韓国における日本古典文学—」姜錫元韓国東国大学校教授 ②パネルディスカッション パネリストは姜教授, 教育学部加藤国安教授, 小林資忠教授, 竹永雄二教授, 教育学部2回生黒田沙樹。進行役は教育学部福田安典助教授。 出席者は約50名(研究会会員以外は5名)</p> <p>ニュージーランド研修 2006年2月25日~3月10日, ダニーデン教育大学。 学生同士がプロジェクト学習を通じて自文化と他文化を比較研究して交流を深め, 最後にポスターセッションによる発表を行った。</p> <p>『国際理解教育研究会会報』の刊行 国際理解教育研究会編 2006年3月31日発行。 発行部数…200冊。内容…年間の活動の報告。配布先…研究会メンバーと学内外の関係機関, 部署。</p> <p>『国際理解教育実践報告書』の刊行 国際理解教育研究会編 2006年3月31日発行。 発行部数…200冊。内容…①新しい国際理解教育のための授業案とその解説。②ニュージーランド研修における研修と交流の成果の報告。③釜山研修の報告。④公開シンポジウム「大学における外国文学」の記録。配布先…国際交流・国際理解教育に関係する学内外諸機関, 研究会メンバー。</p>

<p>研究会名</p>	<p>芸予地震被災資料救出ネットワーク愛媛</p>
<p>代表者名</p>	<p>内田九州男（法文学部教授）・武智 利博（伊予史談会会長）</p>
<p>本年度の 内部活動</p>	<p>1. 調査・整理作業 (ア) 今治市 計34回 (イ) 松山市 計5回 (ウ) 新居浜市 計1回</p>
<p>本年度の 対外的な 活動内容</p>	<p>1. 戦後60年戦争資料展 ・日時：平成17年7月23-25日 ・テーマ：地域における歴史資料の保存 ・開催場所：愛媛大学総合情報メディアセンター ・入場者数：約400名（うち外部者約300名）</p> <p>2. 刊行物 ・タイトル：『今治市・秋山家資料目録Ⅱ』 ・編集・発行：愛媛資料ネット ・発行部数：600部 ・発行日：平成18年1月31日 ・配布先：図書館，博物館，愛媛資料ネットメンバーなど ・概要：芸予地震時に救出した資料の目録 ・目的：地域歴史資料の保存と利用</p> <p>3. 配布物 ・タイトル：『愛媛資料ネット会報』第6号，第7号 ・編集・発行：愛媛資料ネット ・発行部数：300部 ・発行日：平成17年4月13日，10月19日 ・配布先：愛媛資料ネットメンバーなど ・概要：過去半年間の活動内容及びそれに関する小論 ・目的：活動内容の周知，資料保存の協力</p> <p>4. 「市町村合併に伴う公文書等の破棄・処分防止について」を公表 ・日時：平成17年7月13日 ・概要：歴史資料を破棄，処分しないよう県内旧市町村に要請 ・目的：市町村合併に伴う公文書等の破棄・処分を防ぐため</p>

<p>研究会名</p>	<p>愛媛大学国際比較文化フォーラム</p>
<p>代表者名</p>	<p>竹永 雄二 (教育学部教授)</p>
<p>本年度の 内部活動</p>	<p>今年度は、世界の大学の地域貢献の調査を基にして、愛媛大学のこれからの地域貢献のあり方を探ることを研究テーマとし、4月、7月、10月に各1回ずつ、計3回の研究会を行った。4月はアメリカの大学での移民を対象にした2言語教育について、7月はOECDによる世界の大学の地域貢献について、10月は留学生の果たす地域貢献について報告をし、その後討論を行った。</p> <p>11月からは、公開シンポジウムの計画を立て、全員協力してその準備にあたった。1～3月は公開シンポジウムの報告を中心に報告書の作成にあたった。</p>
<p>本年度の 対外的な 活動内容</p>	<p>上記の通り、世界の大学の地域貢献の調査を基にして、愛媛大学のこれからの地域貢献のあり方を探るという今年度の活動の一環として、「大学と地域貢献」というテーマで、2005年12月3日(土)午後2時から法文学部大会議室で公開シンポジウムを開催した。参加者は約30名。</p> <p>シンポジウムでは、前川尚・愛媛大学副学長の挨拶の後、地域貢献の分野で、いち早く活動を始め、大きな実績をあげている3氏から活動報告があった。まず、ルース・バージン氏(学生・教育支援機構助教授)から、サバイバルのための日本語指導、リサイクルによる生活支援、地域との交流の促進支援などの留学生支援活動についての報告があった。次に、川岡勉氏(教育学部教授)より、市民と一体となり、全国的な支援の輪を広げながら展開されていった、中世の貴重な歴史遺産である、湯築城遺跡保存活動についての報告があった。最後に、山本万喜雄氏(教育学部教授)より、重信町での子育て学習会、NPO法人松山子ども劇場21での子育て講座、松山市保健所での母親学級などでの、語り合い、学び合いを大切にしたい、長年にわたる地域に根ざした子育て支援活動の報告があった。</p> <p>その後、加藤国安(教育学部教授)、牧秀明(法文学部教授)、金子省子(教育学部助教授)の各氏より、活動報告に対するコメントおよび大学として具体的に取り組むべき施策の提案、海外での取り組みの紹介があった。</p> <p>さらに、参加者との活発な意見交換を通して、地域貢献とはただ市民の要求に応えればよいというものではないこと、地域貢献とは一方的な支援ではなく、市民から与えられるものが数多くあること、今後もこのような地域貢献のあり方を市民と一緒に考えていく学習会を継続する必要があるなどの共通理解を得ることができた。</p> <p>刊行物 『愛媛大学国際比較文化フォーラム報告集 公開シンポジウム「大学と地域貢献」』 80部印刷 配布先…愛媛大学事務局、愛媛大学地域創成研究センター、学生・教育支援機構、教育学部、法文学部など。</p>

<p>研究会名</p>	<p>多文化社会研究会</p>
<p>代表者名</p>	<p>山川 廣司（法文学部教授）</p>
<p>本年度の 内部活動</p>	<p>平成17年度法文学部人文系学部長裁量経費「多文化社会の諸相および変容に関する総合研究(2)」による研究例会（全5回：第1回 12月2日(金)、第2回 12月9日(金)、第3回 12月16日(金)、第4回 1月13日(金)、第5回 1月20日(金)） なお、本研究例会における報告は『多文化社会研究会研究報告』第4号として公刊。</p>
<p>本年度の 対外的な 活動内容</p>	<p>○平成17年度多文化社会研究会第9回公開シンポジウム「ドイツの文化と社会－自然・都市・環境の視点から－」を開催（平成17年7月2日(土)） なお本シンポジウムの報告書は、地域創成研究センターより交付された研究活動補助金により作成した（2005年12月14日発行 300部）。</p> <p>プログラム</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ドイツ絵画に見る自然と環境 宇和川耕一（愛媛大学法文学部教授） ・ドイツの詩における都市像 牧秀明（愛媛大学法文学部教授） ・ドイツの環境政策－エネルギー問題を中心に 松尾博史(松山大学経営学部助教授) <p>コメント</p> <ul style="list-style-type: none"> ・松山市における環境政策 松山市役所職員 ・アメリカの環境政策 パトリシア・ライオンズ（教育・学生支援機構助教授） <p>司会 木下卓（愛媛大学法文学部教授）</p> <p>○平成17年度多文化社会研究会第10回公開シンポジウム「四国遍路と世界の巡礼－アジアの巡礼」(共催)（平成17年11月5日(土)） なお本シンポジウムの報告要旨集は、地域創成研究センターより交付された研究活動補助金により作成した（2005年11月5日発行 400部）。</p> <p>プログラム</p> <ul style="list-style-type: none"> ・イスラームの参詣と巡礼 大稔哲也（九州大学大学院人文科学研究院助教授） ・カイラス巡礼－宗教的見地から 黒木幹夫（愛媛大学法文学部教授） ・四国遍路と作法の変遷 内田九州男（愛媛大学法文学部教授） <p>司会 小嶋博巳，寺内浩</p>